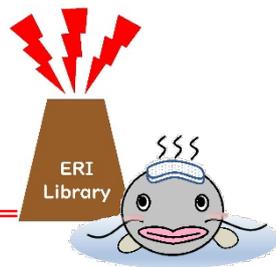


温泉でめぐる日本の火山



火山は被害をもたらすばかりではなく、人々の営みに様々な恩恵を与えています。今回の展示では、地震研究所図書室で所蔵している江戸時代・明治時代の温泉に関する史資料をとおして、火山の恵みの一端をご覧くださいます。あわせて、安政江戸地震（1855年）直後に出版された大量の瓦版（現在の新聞のような摺り物）の中から、鯰を描いた多色刷り版画（鯰絵）も展示します。



災害絵図

「寛政四子年肥前国嶋原山々燃崩城下町々村々破損ノ圖」

寛政四年（1792年）に九州西部の島原で雲仙岳が噴火し、隣接する眉山が地震によって崩壊しました。島原の城下町の大半は、眉山の山体崩壊による岩屑流に押し流され、有明海に流れ込んだ岩屑流で大津波が発生しました。



鯰絵「鯰の掛軸」

安政江戸地震後の復興景気でもうけた人々にとって、鯰は災いの元凶から有り難い世直し鯰になりました。

版本「上州伊香保鑛泉圖會 全」

万病に効くとされる伊香保温泉は、江戸時代初期にはすでに温泉街ができており、元禄期になると庶民だけではなく、前橋藩主や家中の武士たちもたびたび入湯に来るほどに賑わっていました。明治時代に出版された観光案内では、飲酒後すぐの入浴や浴室での洗髪が禁止されています。

